

31 竹内栖鳳《薰風稚雀・寒汀白鷺》

昭和三年（一九二八）

絹本着色

本紙各一五・三三×五一・三三



作者の竹内栖鳳（一八六四〜一九四二）が題名につけた「薰風」とは、夏の半ば、青く茂った草木の間を吹き抜けてくる風のことであり、画面でも青々とした柳の葉が風に揺られ、その下で小さな体に充ち満ちた生命力を発散するように二羽のスズメが喧しく鳴いている。対する左幅は、冬枯れして色褪せた葦とともに羽繕いをするシラサギが描かれる。色彩豊

かな夏に対して、ここでは色も無く音も無い静謐な冬の世界が表現されている。動物画を得意とした栖鳳は、スズメやシラサギも繰り返し描いたが、スズメを描く場合は往々にして賑やかさの表現として、一方でシラサギは物静かな雰囲気を持たせて描く例が目立つ。対幅形式の本図はまさにその動と静の対比の妙を主眼にした構成と言えよう。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

鳥の楽園 — 多彩、多様な美の表現

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 68

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年三月二十一日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonaru Shozokan